



CQM(超短期経済予測モデル)

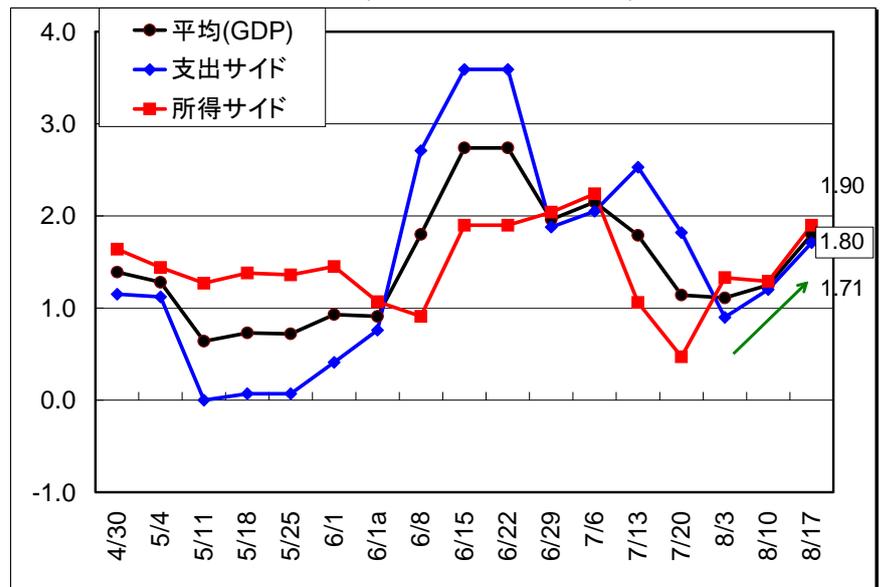
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2012年8月17日)

ポイント

- ▶今週の CQM は 7-9 月期の実質 GDP 伸び率を支出、所得サイドからそれぞれ 1.71%、1.90%と上方に修正した。更に、景気回復へのモーメントの兆しが見られる(グラフ)。
- ▶インフレ率に関しては、ヘッドラインインフレ率、そのコアインフレ率をそれぞれ 0.2%、1.3%と予測している。
- ▶実質最終需要の CQM 予測も実質 GDP 予測と同じような上昇トレンドを形成し始め、その伸び率は 3%を超えるようになった。
- ▶8月のNY連銀、フィラデルフィア連銀の製造業調査指数が共にその地域の製造業活動の縮小を示しているのが懸念される。
- ▶市場参加者の 60%が更なる金融緩和を予想しているが、CQM 予測から9月のFOMCにおけるQE3の導入の可能性は小さいとみている。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2012Q3 (%、前期比年率換算)



<減速してきた米国経済に景気回復モーメントの兆し>

8月17日のCQM予測は6月の小売業在庫、7月の生産者物価指数、小売販売、鉱工業生産指数、消費者物価指数(CPI)を更新した。その結果、今週のCQMは2012年7-9月期の実質GDP伸び率を支出サイドでは1.20%から1.71%へ、所得サイドでは1.20%から1.90%へとそれぞれ上方修正した。両サイドからの平均実質GDP伸び率は1.25%から1.80%へ上方に修正された。

今週発表された8月のNY連銀の製造業調査指数が全くの予想外に前月の7.4から-5.8へと大幅に下落し、この地域の製造業活動の縮小を示すようになった。そのため、これまで異常値のように思われていたフィラデルフィア連銀の製造業調査指数によるこの地域の製造業活動の4ヶ月連続縮小への見方が変わった。市場は今後のその他連銀地域における製造業活動の縮小を懸念するようになった。更に、8月のCPI伸び率が前月に続きゼロ%であったことから、市場では9月12-13日におけるFOMCミーティングにおいて更なる金融緩和を予想するようになった。8月17日のロイターの調査では61人のエコノミスト、ディーラーのうち60%近くが更なる金融緩和を予想している。

しかし、グラフに見るように支出・所得両サイドからの実質GDP伸び率予想が上昇トレンドを形成し始めた。更に、持続的経済成長を考える上で重要な実質最終需要の伸び率も上昇トレンドを形成し始め、今週のCQMでは3%以上の伸び率となった。それ故、CQMはこれまでスローダウンしてきた景気に回復のモーメントの兆しを見ている。おそらく、今後発表される月次経済指標を更新していくことで景気回復のモーメントが確かなものになっていくだろう。それ故、連銀が9月のFOMCミーティングで更なる金融緩和策を導入することはないだろう。しかし、今後発表される地域連銀による製造業調査指数、8月のISM製造業指数には注目する必要がある。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550